

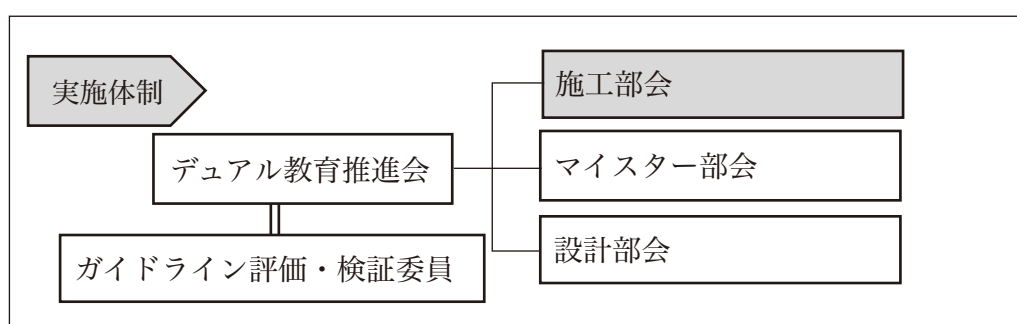
# 平成28年度活動結果

## 1. 意義と課題の抽出

産官学連携の企業内実習を全国の専修学校向けに全国版スタンダードなガイドラインを作成することにおいて、意義と課題について以下の実施体制の下、議論を重ねた。

### (1) 施工部会における意義と課題の抽出

#### ■ 施工部会実施体制図



### ① 企業内実習の意義

#### 【学校・学生側】

- ・ 現場の「生」の姿を知る機会となり、就職の際のミスマッチが解消できる。
- ・ 現場に出ると自分のやりたいことと実際との違いを知ることができる。
- ・ 技術力(職人の技を見て実感)・コミュニケーション能力等が養われる。
- ・ 仕事の嫌な面を事前に知る事ができる(例:職人との給与面の違い等)。

#### 【企業・業界団体側】

- ・ 人材不足の中、就職へつなげる機会となる(人材確保のため)。
- ・ 学生の態度・能力を見極めることができる。
- ・ 経験の少ない指導担当者(社会人4～5年生)のよい勉強の機会となる。

### ② 企業内実習の課題

#### 【学校・学生側】

- ・ 安全に関する指導をしても、認識まで高まらない(安全についてしっかりと自覚しないと現場での足手まといになる)。
- ・ 企業側の学生評価をどのようにするか。(担当者で意見交換、職長の指導、アンケート等)
- ・ 傷害保険への加入等の事故対応を明確にする。

#### 【企業・業界団体側】

- ・ 企業のトップに理解がないと実習受入れは難しい。

- ・受入体制が整っていない企業では、効果的な実習は難しい。
- ・入社が内定した学生でないと、長期に毎日の実習を受け入れることは難しい。
- ・施工会社が魅力的に見えるような現場の継続的な提供を工夫する。

### ③ 企業内実習のあり方

#### 【適切な実習期間の設定】

- ・地べた周りから内装まで一連の流れを体験するには4ヶ月間、週1回の現場実習が必要。
- ・1～2ヶ月間、ぶっ通しは、職人の場合はよいが、監督業は行程の進捗が分かりにくいし、一通り覚えるには個人差もあるが、1～3年掛かるため現実的ではない。

#### 【適切な十種現場の設定】

- ・興味・関心を喚起する現場を選定する必要がある(工期が厳しい・人数が少ない現場は見送る)。
- ・行程の進捗を見ながら、タイミングよく実習を開始する。
- ・プロを目指す学生に、見学会的な実習はよくない。

### ④ 安全整理のあり方

#### 【学校・学生側】

- ・学校では、実習を行う前に、参加学性に対して90分1コマの安全教育を行っている(服装や態度、危険回避等)。
- ・安全に関することは、繰り返し指導しないと行動に結びつかない。
- ・まず、大きな声で挨拶をすることが基本である。
- ・体調を万全にして来ない学生がいる

#### 【企業・業界団体側】

- ・一番多い事故は物的要因ではなく、人的要因である(ヒューマンエラー)。
- ・職員の特性を把握し、資質向上に努めている。
- ・危険予知(KY)活動から、危険源を見つけ提言するリスクアセスメントへと取組を転換し、毎朝、朝礼後、実施している。



#### 今後の指導の工夫

- ・書店にある「新入社員テキスト」等を参考にし、安全に関するマニュアルやチェックシートを作成するとともに、事故が起きた場合の行動マニュアルも作成する。
- ・作成したマニュアルをもとに学校で指導し、自覚・認識しているか企業内実習(企業内実習)で検証する。

## ⑤ 評価のあり方

### 【学校側の意見】

- ・ 学校で評価したものを企業側へフィードバックし、企業の手で評価することが必要である。
- ・ 企業評価は、学生に企業側が自分をどう見ているかを意識させるためにも進めたい。

### 【企業側の意見】

- ・ 学生の動きだけを見て評価するのは難しい。
- ・ 評価する手間の問題ではなく、評価する基準の難しさの問題である。
- ・ 仕事に対する姿勢などの簡単なチェックシートがあれば評価できる。

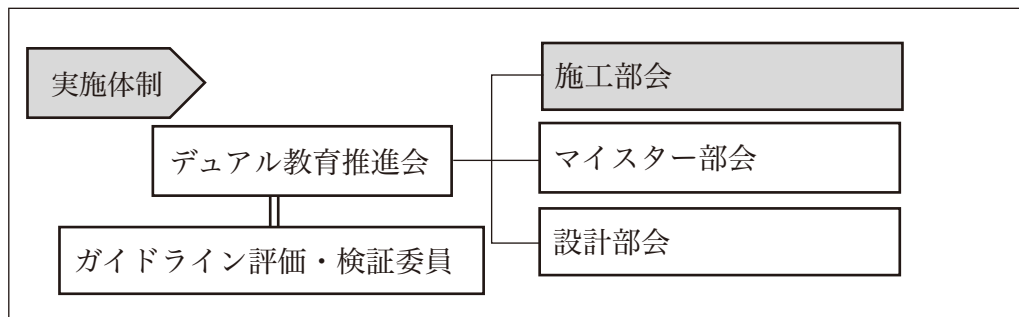


### 今後の指導の工夫

- ・ 企業と学校が合致した評価方法・評価内容を検討していく。
- ・ 企業評価チェックシートを作成し、企業の手で学生評価を進める。
- ・ 日報を安全と品質に分けて記述させ、学校だけでなく企業側もコメントを書くことも検討する。

## (2) マイスター部会における意義と課題

### ■ マイスター部会実施体制図



## ① 企業内実習の意義

### 【学校・学生側】

- ・ 仕事ができないことを実感する。
- ・ 自分の志望と実際の職場とのギャップに気づく。
- ・ 職人技術で飯が食えるという間違いに気づく。
- ・ 学校(授業)と社会(現場)の違いを知る。

### 【企業・団体側】

- ・ 現場の雰囲気を感じてもらう。
- ・ 現場の実際を知る。

- ・職人が何を考えて仕事をしているか学ぶ。
- ・現場の流れを理解する。
- ・他人との関係(ネットワーク)の必要性を知る。



#### 今後の指導の工夫

##### ■長期の企業内実習であれば効果が期待できる。

- ・長期間の夏休みの現場でのアルバイトが一番、身になっている。2～3日の実習は仕事体験レベルになってしまう。
- ・学校ではどうしても甘えが出てしまう(緊張感の持続性がない)。

### ② 企業内実習の課題

#### 【学校・学生側】

- ・社会生活上のマナーやルールを守る指導を徹底する(特に挨拶、遅刻等)。
- ・やる気、一所懸命さ、集中力等を重点的に指導する。
- ・授業時間で終わる指導から、課題解決で終わる指導へ。
- ・現場のルール、安全衛生法違反などについて、企業・学校が協力して指導する。
- ・長期企業内実習と単位認定、授業との関係を整理する。

#### 【企業・業界団体側】

- ・受入現場があるか。
- ・2人の現場では学生指導が難しい。
- ・職種による長期企業内実習のあり方を整理する(一時期集中か年間定期的等)。
- ・職種による無償・有償を整理する。
- ・傷害保険加入方法を整理する。
- ・事故時の責任の所在を明確にする協定書等を検討する。

### ③ 学生の実習中の事故等への対応方法(主に保険等)

#### 【学校・学生側と企業・業界団体側との共通認識】

- ・学校が現在加入している企業内実習活動賠償保険、学生災害傷害保険で対応する。

### ④ 企業内実習の期間と実施時期・受入れ方法と課題

#### 【学校・学生側と企業・業界団体側の共通認識】

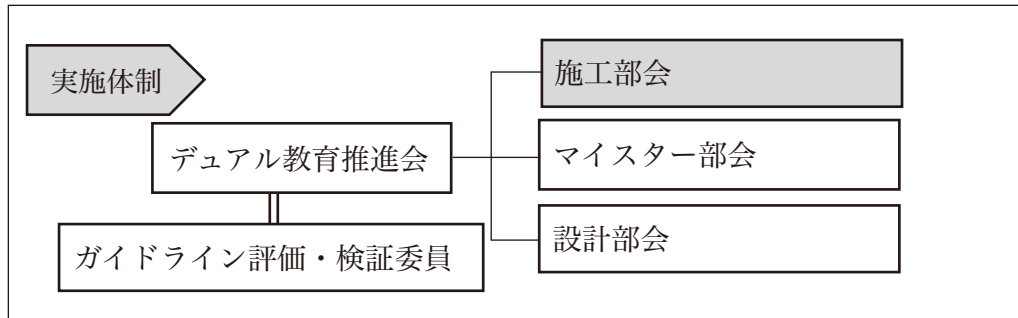
- ・実施期間:長期間として1ヶ月程度、もしくはそれ以上。
- ・実施時期:3級の技能試験が終わる7月以降(8月から)、2級の技能検定が終わる1月以降、一定水準以上の学習を行った後の2年の10月頃。
- ・受入れ方法:他の職種と違い、大工・左官は無償を原則とする。

【課題】

- ・学校のカリキュラムとの関係から適切な実施時期を選定する。

(3) 設計部会における意義と課題

■設計部会実施体制図



① 企業内実習の意義

【学校・学生側】

- ・設計という職場の雰囲気を味わうことができる。
- ・設計の仕事をやりたいと思って入学しているが、途中で施工の仕事に変わる学生がいる。その場合、実習により早い段階で施工へと軌道修正できる。
- ・企業とのミスマッチ解消の機会となっている。

【企業・団体側】

- ・人材不足の中、就職へつなげる機会となる(人材確保のため)。
- ・実習を行うことにより、地元企業に目を向けさせる機会となる。
- ・採用時のマッチングを図るための学生の態度・能力を見極めることができる。

② 企業内実習のあり方

【適切な実習期間の設定】

- ・授業や資格試験対策などで、長期に実習を行うことは課題がある。
- ・現在のカリキュラムを大きく変えず、夏季休業日を短縮して実習を実施すると課題は解消できる。
- ・実習により、単位取得できることから、学生も納得する。

【企業内実習の内容】

- ・設計は発注者から思いを聴き取る能力が必要であり、そのような場面に立ち会えるような実習が好ましい。
- ・現在は設計と施工が一体化してきているため、様々な場面に会えるような実習が望ましい。学生の今後の設計、施工を選択する参考にもなるために必要である。

### ③ 企業内実習に向けて

#### 【実習企業の調整】

- ・ 設計事務所協会が仲介をして、企業と学生の調整を図る。
- ・ 一度、実習を受入れてくれれば、その後も要請があれば配慮してくれる。
- ・ 毎年継続するのであれば、企業も受け入れる体制ができる。

#### 【実習時期等の検討】

- ・ 学校としては、1年生の夏季休業日前後が望ましいため、その時期に受入企業があるか検討を進める。
- ・ 最低1週間とし、可能な範囲で長期化する方向で検討する。
- ・ 設計実習実施プログラムのようなものを作ることを検討する。

## 2. 企業実習に使用する様式の検討

### ① 企業内実習・安全チェック表

施工用・マイスター用の企業内実習・安全チェック表について議論を行った。

#### 【検討結果】

全体的に不明確な部分等を各分野(施工とマイスター分野)向けに明確化な表現とした。

### ② 企業内実習活動日誌

マイスター用企業内実習活動日誌について議論を行った。

#### 【検討結果】

実習指導員が確認した日付と押印場所を下部部分に追加することになった。

### ③ 企業内実習・評価表

施工用・マイスター用の企業内実習・評価表について議論を行った。

#### 【検討結果】

企業からの評価が得られやすいよう、企業評価しにくい部分は未記入でも可能など、企業負担を軽減することにも配慮するとともに、企業方向のみではなく学校との協力による合同評価表として進めることとした。

### 3. アンケート結果(抜粋:主に記述部分を掲載、その他の部分は平成28年度成果報告書参照)

[学生アンケート結果:施工]

#### ◆企業内実習に参加して自分の成長に役立ったこと(記述)

- ・現場での施工者との会話の仕方や造形の技術が身に付いた。
- ・図面からの読み取り、現場の見学など。
- ・現場を見ることで資格試験の時に理解しやすかった。
- ・実際に市役所などのホームページを見ながら規定に合っているか確認する作業など、知らない事が多くあった経験ができたこと。
- ・職人さんたちと直接話をすることができたこと。
- ・現場の人とのコミュニケーション、仕事内容、安全管理など。
- ・色々な職業があるのが分かったこと。
- ・左官の仕事が体験できたこと。
- ・学校の座学だけでは分からないこと、聞いているだけでは分からないことが企業内実習で実際に体験することで分かるようになったこと。
- ・学校の授業だけでは分かりにくかったことも、実際に見ること体験することで分かるようになった。
- ・職人の人たちと一緒に作業すること。
- ・施工管理の試験の役に立ったと思うこと。
- ・社会人としてのマナー、徹底した安全配慮、現場がどのように動いているのか知ることができたこと。
- ・実際の仕事を近くで体験できたこと。
- ・全く知らなかった造園の仕事内容が分かったこと。
- ・造園施工管理士、建築施工管理士、ビオトープ施工管理士、土木施工管理士などの試験に役立ったこと。

#### ◆企業内実習において学校に期待すること(記述)

- ・企業内実習で習ったことを活かしたい。
- ・色々な体験ができることを期待する。
- ・木造や住宅に関する企業内実習も増やしてほしい。
- ・もっと学校の授業で現場見学に行ったりするとよいと思う。
- ・今後も継続し続けてほしい。
- ・色々な企業内実習があるところ。
- ・公共施設の現場もできれば体験したい。
- ・企業内実習を辞めないでほしい。
- ・企業内実習の内容を最初に全て説明して計画を立てられるようにしてほしい。

#### ◆企業内実習の体験後気づいた点や提案等(記述)

- ・今のままでよい。
- ・サマー企業内実習の期間がもう少し長くしてもらいたい。
- ・十分に充実していたと感じている。
- ・時間をもっと多く、内容を厚くしてほしい。
- ・資格に役立つ現場も見てみたい。
- ・もう少し長期の企業内実習もあった方がよいと思う。

#### 【アンケート結果】

##### <企業内実習への関心理由>

「学校では体験できないことがあると思ったから」60.9%、「技術を目の前で見られる貴重な体験と思ったから」60.9%、「将来役立つと思ったから」43.5%が主な回答であった。

##### <企業内実習参加の不安な点>

「企何を勉強すればよいか分からない」37.5%、「学校内の勉強だけでよいと思った」25.0%、「社会人(知らない大人)との接し方が分からない」12.5%が主な回答であった。

##### <企業内実習の体験から得られたもの>

「知らないことの多さ」78.3%、「現場での実践的な知識の習得」56.5%、「現場での実践的な技能の習得」52.2%、「将来の就職に繋げるために役立つ知識・技術の習得」43.5%が主な回答であった。

##### <企業内実習についての保護者の理解>

「よく理解している」60.9%、「理解している」34.8%と多くの保護者から理解を得られているとの回答であった。

##### <企業内実習に参加してどう感じたか>

「すごく良かった」69.6%、「良かった」30.4%と全員から良かったとの回答が得られた。

#### 【まとめ】

企業内実習を通して生の現場の雰囲気を知ること、仕事には色々なものが携わっており、一つの知識のみでは成り立たないという良い体験ができたと考える。

参加する前は感心がなかった学生も、最終的には参加して良かったと回答していることでも企業内実習は少なくとも学生にとっては、「何をすべきか」の道標となる取組みの一つと考える。

また、自分の成長に役立ったことにも明記されているように、企業内実習を通して参加した学生は、業界に携わる者としての自覚が芽生え始めている。

今後もこの取組みを継続しつつ、より充実な内容としていくことが必要と再認識させられる調査内容であった。



[学生アンケート結果:設計]

◆**企業内実習に参加して自分の成長に役立ったこと(記述)**

- ・ 授業では教えられていないたくさんの新しい知識が身に付いたこと。
- ・ 現場での施工者との会話の仕方や造形の技術が身に付いた。
- ・ 設計事務所の仕事の内容を間近で体験できたこと。
- ・ 実際の現場の雰囲気を味わえたこと。
- ・ 本読み。
- ・ 図面からの読み取り、現場の見学など。
- ・ 実際の仕事で使う資料の作成ができたこと。
- ・ 現場を見ることで資格試験の時に理解しやすかった。
- ・ 模型造りやC A D。
- ・ 模型を作る際に、部材の切断面の綺麗な出し方など教えてもらったこと。
- ・ 実際に市役所などのホームページを見ながら規定に合っているか確認する作業など、知らない事が多くあった経験ができたこと。
- ・ 学校では分からないことを実際に見て学べたこと。
- ・ 実際の図面や現場を見ることができることや、授業では分からなかったことが分かるようになったこと。

◆**企業内実習において学校に期待すること(記述)**

- ・ 協力。
- ・ 企業内実習で習ったことを活かしたい。
- ・ 色々な体験ができることを期待する。
- ・ 木造や住宅に関する企業内実習も増やしてほしい。
- ・ このままで良いと思う。

◆**企業内実習の体験後気づいた点や提案等(記述)**

- ・ 今のままでよい。
- ・ 学校側が内容を決めてほしい。
- ・ サマー企業内実習の期間がもう少し長くしてもらいたい。

**【アンケート結果】**

**<企業内実習への関心理由>**

「学校では体験できないことがあると思ったから」70.0%、「就職に有利になると思ったから」45.0%、「将来役立つと思ったから」と「技術を目の前で見られる貴重な体験と思ったから」各40.0%が主な回答であった。

- ・学校では体験できない現場での作業風景が見られたこと。
- ・周囲を見て次に何をすべきか、どのように周りを動かすべきかなど。
- ・現場の人たちとのコミュニケーション。

#### ◆企業内実習において学校に期待すること(記述)

- ・企業内実習の日数を増やしてほしい。
- ・他の地域での企業内実習の実施。
- ・みんなの手を止まらないようにしてほしい。
- ・食事のこと。
- ・本校の良さをアピールすること。

#### ◆企業内実習の体験後気づいた点や提案等(記述)

- ・候補先をいくつか出し、自分が一番興味をもったところに行けるようにする。
- ・宿泊がなく、もう少し手軽に行けるようなものがあれば良い。
- ・手が止まったり、固まったりすることがあるため、班の中でも学年別の2人ペアを組ませるなどの工夫をしてほしい。
- ・食事のこと。
- ・仕事内容の把握。

#### 【アンケート結果】

##### <企業内実習のへの関心理由>

「学校では体験できないことがあると思ったから」75%、「技術を目の前で見られる貴重な体験と思ったから」50.0%が主な回答であった。

##### <企業内実習参加の不安な点>

「社会人(知らない大人)との接し方が分からない」と「めんどくさいと思った」、「人間関係」が各33.3%の回答であった。

##### <企業内実習の体験から得られたもの>

「現場での実践的な技能の習得」80.0%、「現場での実践的な知識の習得」65.0%、「知らないことの多さ」45.0%が主な回答であった。

##### <企業内実習についての保護者の理解>

「よく理解している」65.0%、「理解している」35.0%との回答であった。参加する学生の保護者からは企業内実習についての理解を得られているという回答であった。

## <企業内実習に参加してどう感じたか>

「すごく良かった」65.0%、「良かった」35.0%と全員から良かったとの回答が得られた。めんどくさいと思っていた学生からは最終的には良かったと回答していた。

### 【まとめ】

企業内実習を通して生の現場の雰囲気を知ること、仕事には色々なものがあり、それを体験できたことが良い経験となったと思える。

参加する前は感心がなかった学生も、最終的には参加して良かったと回答していることでも企業内実習は少なくとも学生にとっては、「何をすべきか」の道標となる取組みの一つと考える。

また、自分の成長に役立ったことにも明記されているように、多くの体験をしたことで、好奇心が芽生えてきている。

学生に対して仕事の楽しさを伝えることができていることが励みとなる。今後もより充実した内容を実施し、参加する学生に仕事の楽しさを伝えていくことが必要と再認識させられる調査内容であった。

[学生アンケート結果:マイスター]

#### ◆企業内実習に参加して自分の成長に役立ったこと(記述)

- ・昔のやり方や、現在学んでいる分野とは別の分野のことも体験できたこと。
- ・現場の体験ができたこと。
- ・現場での動き方。
- ・様々な道具の使い方を教えてくれたこと。
- ・古民家再生:既存のもの良さを残したまま加工していく作業体験ができたこと。
- ・仕事の難しさを体験できたこと。
- ・普段学校ではできない事を一から学べることができたこと。
- ・実際の現場に出たことで職人さんの技術を目の当たりにすることができたこと。
- ・学校では体験できない現場での作業風景が見られたこと。
- ・周囲を見て次に何をすべきか、どのように周りを動かすべきかなど。
- ・現場の人たちとのコミュニケーション。

#### ◆企業内実習において学校に期待すること(記述)

- ・企業内実習の日数を増やしてほしい。
- ・他の地域での企業内実習の実施。
- ・みんなの手を止まらないようにしてほしい。
- ・食事のこと。
- ・本校の良さをアピールすること。

#### ◆企業内実習の体験後気づいた点や提案等(記述)

- ・ 候補先をいくつか出し、自分が一番興味をもったところに行けるようにする。
- ・ 宿泊がなく、もう少し手軽に行けるようなものがあれば良い。
- ・ 手が止まったり、固まったりすることがあるため、班の中でも学年別の2人ペアを組ませるなどの工夫をしてほしい。
- ・ 食事のこと。
- ・ 仕事内容の把握。

#### 【アンケート結果】

##### <企業内実習への関心理由>

「学校では体験できないことがあると思ったから」75%、「技術を目の前で見られる貴重な体験と思ったから」50.0%が主な回答であった。

##### <企業内実習参加の不安な点>

「社会人(知らない大人)との接し方が分からない」と「めんどくさいと思った」、「人間関係」が各33.3%の回答であった。

##### <企業内実習の体験から得られたもの>

「現場での実践的な技能の習得」80.0%、「現場での実践的な知識の習得」65.0%、「知らないことの多さ」45.0%が主な回答であった。

##### <企業内実習についての保護者の理解>

「よく理解している」65.0%、「理解している」35.0%との回答であった。参加する学生の保護者からは企業内実習についての理解を得られているという回答であった。

##### <企業内実習に参加してどう感じたか>

「すごく良かった」65.0%、「良かった」35.0%と全員から良かったとの回答が得られた。めんどくさいと思っていた学生からは最終的には良かったと回答していた。

#### 【まとめ】

マイスターの企業内実習においては、技術の習得が主な目的の一つでもある。回答にもその傾向が表れている。その中の一つに、職人の技術を目の当たりにすることにより自分の成長に役立ったとある。

一方、企業側が大事にしている社会人としての最低限のマナーやコミュニケーションについては、学生としてはそこに重きを置いていないため、気づいていないという点が見受けられた。

学校の授業だけでは分からないことも、企業内実習を通すことにより、理解できたり気づいたりという得られることは多いと思われる。

今後の取組みにおいては、学生から日数を増やしてほしいとの声もあるため、現状の取組みと並行しながら、長期企業内実習の取組みを検討していく。

## 施工、マイスター、設計学生アンケートまとめ

施工、マイスター、設計と全体を通して見ると、学生が参加する前に不安な部分はあるのが見受けられたが、最終的には、参加者全員が学校では学ぶ事のできない多くのものを学んで満足した様子であった。

社会人(知らない大人)とのコミュニケーション(人間関係等)に不安を抱えていた学生も現場の雰囲気になれることができた。

また、実際の現場においては学ぶ事が多く、社会人として当たり前のことでも学生にとっては「できない」ということを経験し、自分自身が知らないことが多々あることに気づかされた点は、学生にとっても良い刺激になったと思える。

学生からの声にもあるように、もっと企業内実習の時間数を増やしていくことが必要と思われるが、現在のカリキュラムとの兼ね合いもあり、検証を重ねる必要がある。

ある程度の最低限の資格を有することは必要前提であるが、より即戦力になり得る人材を数多く育成する目的の手段として、現場の雰囲気を知る必要がある。

企業内実習は現場の雰囲気を知る最も良い方法の一つとかがえる。今後は、企業と学生にとっても有意義となるようなカリキュラム作りが求められている。

[企業アンケート結果]

### <企業内実習の受入れ頻度>

「毎年受入れている」75.0%、「依頼があったときに受入れている」25.0%であった。

### <企業内実習の受入れ目的>

「業界全体の向上のため」と「人材確保のため」各75.0%、次に「地域貢献・活性化のため」50.0%であった。

### <企業内実習に参加する学生に求めること>

「あいさつ」と「コミュニケーション」各75.0%、次に「他人の話を聞く姿勢」50.0%であった。

### <企業内実習受入れの課題>

- ・年度末の繁忙期の受入れは避けたい。
- ・社会人として最低限の礼儀
- ・長期となる場合には、受入れる現場が無い可能性がある。
- ・会話ができること。

### <企業内実習の安全対策>

- ・足場上など墜落の危険がある場所へは立ち入らない。
- ・通勤時(朝・夕)。
- ・高所作業、電動工具の取り扱い等にはミーティング、その他ケースバイケースでその都度安全対策に望んでいる。  
などの対策が行われている。

### <企業内実習受入れの配慮>

「生徒とのマッチング」、「従業員の指導方法」、「知識(スキル)・技術力を習得させること」、「コミュニケーション」各50.0%であった。

### <企業内実習の継続性の考え>

現場次第との回答もあったが、企業内実習に適した現場があること望ましいことが前提としてある。アンケート協力先企業では全社から継続して受入れるとの回答が得られた。

## (3)まとめ

アンケート協力した企業は、精力的に学生の受入れの体制を整えている。その目的として、業界全体の向上と人材確保という明確な答えがある。

しかしながら、企業としては良い人材は優先的・独占的に採用したいものだが、今回のアンケート協力の企業は、業界の発展が第一とした奉仕の精神で企業内実習を受入れている考えである。このような考えが基礎となっていることで、ワンランク上の人材育成への協力が成り立っている。

特定企業での企業内実習は現場の状況にもよるため厳しいものの、今回のアンケート協力企業のような、企業内実習の受入れに賛同の回答をいただいた企業が数多く集まることにより、安定した現場の確保が可能となり、産学連携の継続的な企業内実習が成り立つと考える。

# 平成29年度活動結果

平成29年度活動した企業内実習の結果をアンケート結果としてまとめた。

「施工」、「設計」、「マイスター(大工・左官)」のアンケート回答者は下記に列記した実習を体験した学生と受入れた企業担当者からのものである。

## 【施工】

### <学生アンケート回答者実習概要>

実習形式: 通年型

期間: 平成29年 4月12日～8月10日 15週間・週1回 実習時間45時間

参加人数: 8人

### アンケート結果(学生:前期・施工)

- (1) 実習に参加して、自分の進路への考え方はどう変わりましたか。という問いに対して、「意欲がすごく高まった。」74%、「意欲がやや高まった。」13%であった。
- (2) 実際の現場で実習したことにより、これまでに学校で学んだことが、より理解できるようになりましたか。という問いに対して参加者全員から「すごく理解できるようになった。」と回答が得られた。
- (3) 実際の現場での実習は、これからの学習に役立ちそうですか。という問いに対して、「すごく役立つと感じた。」が88%であった。
- (4) 実習に参加したことにより、もっといろいろなことを広く・深く学びたいという、意欲が高まりましたか。という問いに対して、「今後の学ぶ意欲がすごく高まった。」63%、「今後の学ぶ意欲が少し高まった。」38%であった。
- (5) 実習に参加したことにより、礼儀や挨拶・マナーなどの大切さを感じましたか。という問いに対して、「すごく実感した。」87%、「大切さを感じた。」13%であった。
- (6) 実習に参加をしたことにより、日常生活においても礼儀や挨拶・マナーなどに気をつけるようになりましたか。という問いに対して、「すごく気をつけるようになった。」・「少し気をつけるようになった。」ともに、50%の回答であった。
- (7) 実習に参加したことにより、職業人(監督・職人)の生き方に対する見方が変わりましたか。という問いに対して、「これまで以上に強いあこがれと尊敬の念を持つようになった。」88%、「これまでより少しあこがれを持つようになった。」13%であった。
- (8) 職業人(監督・職人)の仕事に対する考え方が分かりましたか。という問いに対して、「知ることができた。」50%、「何となく分かった気がする。」38%であった。



(9)安全に気をつけて実習を行えましたか。という問いに対して、参加者全員から「十分、安全に気をつけて実習できた。」との回答が得られた。

(10)守秘義務があることを自覚し、実習が行えましたか。という問いに対して、「十分に気をつけて実習を行った。」75%、「あまり自覚せずに実習を行った。」13%であった。

---

#### 【まとめ】

企業内実習を通して、学生自身が進むべき進路や学ぶ事に対して意欲が高まったという結果が得られた。また、礼儀・挨拶・マナーといった普段、学生にとっては気にしていない部分の大切さを学ぶきっかけとなっている。

このように、学校で学んだことがどのように活かされるのかを実体験の中で得られる企業内実習は、学生にとって有意義なものと考えられる。

---

#### <受入企業アンケート回答者実習概要>

実習形式：通年型

期間：平成29年10月5日～平成30年2月1日 15週間・週1回 実習時間45時間

参加人数：8人

<b>アンケート結果(企業：施工)</b>
-----------------------

(1)学校が事前の準備・打ち合わせ等の学校が事前に準備しておく必要があるものについての問いに対して、「学生の仕事や将来に関する考え方を書いた作文」を重視していた。

(2)学校が事前に指導する必要があることについての問いに対して、「安全に関する知識と注意事項」を重要視していた。

(3)学校と事前に打ち合わせておく必要があるものについての問いに対して、「学生の学校での様子、個性など」を重要視していた。

(4)学生の知識や障害についての問いに対して、「実習を行う内容について、できれば学校で学んでおいたほうがよい。」を重要視していた。

(5)企業内実習の障害についての問いに対して、「建設に関する知識の不足」、「職種に必要な技能の不足」、「安全に対する知識の不足」、「礼儀や挨拶等の基本的な社会生活上のマナーの欠如」、「ルールを守る規範意識の欠如」、「積極的に学ぼうとする能動性の低さ」、「コミュニケーション能力の低さ」、「他者への思いやりの心の低さ」との回答であった。

(6)学生に習得してほしいものについての問いに対して、「現場の大まかな流れ」、「現場の雰囲気」との回答であった。

(7)受入企業にとっての意義の問いに対して、「その他：弊社に就職してもらえたらと思い、受け入れた。」との回答であった。



(8)大変なことについての問いに対して、「学生に行わせるプログラム作りが大変だった。」との回答であった。

(9)配慮したことについての問いに対して、「現場の実際の様子を体験させるため、職員の一員として仕事に取り組ませた。」「職場に馴染ませるため、若い職員を指導係にした。」との回答であった。

(10)企業内実習を受け入れたことについての問いに対して、「社会が求めている即戦力の育成に貢献するため、実習を受け入れた。」「地元の建設業で働く人材を確保するため、実習を受け入れた。」との回答であった。

---

## 【まとめ】

施工の企業内実習を実施するには、特に安全面を重要視する傾向であることが結果から分かる。また、学生には、実習で必要な知識不足を補う上でも、実習内容を事前に学校で学んでから参加し現場の仕事の流れや雰囲気を経験してほしいと思うこともこの結果から分かる。

企業内実習を受け入れる企業は、自社に就職してもらいたいという企業単体としての考えはあるものの、即戦力の人材育成のための社会貢献や人材が他の地域に行かないよう地元地域の業界活性化のことを考えて企業内実習を受け入れていることが分かる結果となった。

※施工アンケートの企業回答は1社のみのため、参考としてまとめている。

## 【設計】

### <学生アンケート回答者実習概要>

実習形式：短期集中型

期間：平成29年8月7日～9月25日 10～23日間 実習時間80～184時間

参加人数：1～5人

<b>アンケート結果(学生：設計)</b>
-----------------------

(1)実習に参加して、自分の進路への考え方はどう変わりましたか。という問いに対して、「目指していた進路を考え直すきっかけになった。」43%、「これまで目指していた進路への意欲がやや高まった。」21%であった。

(2)実際の現場で実習したことにより、これまでに学校で学んだことが、より理解できるようになりましたか。という問いに対して、「少し理解が深まった。」64%、「すごく理解できるようになった。」29%であった。

(3)実際の現場での実習は、これからの学習に役立つそうですか。という問いに対して、「すごく役立つと感じた。」71%、「少し役立つと感じた。」29%であった。

(4)実習に参加したことにより、もっといろんなことを広く・深く学びたいという、意欲が高まりましたか。という問いに対して、「学ぶ意欲がすごく高まった。」57%、「学ぶ意欲が少し高まった。」36%であった。

(5)実習に参加したことにより、礼儀や挨拶・マナーなどの大切さを感じましたか。という問いに対して、「すごく実感した。」57%、「大切さを感じた。」36%であった。

- (6) 実習に参加をしたことにより、日常生活においても礼儀や挨拶・マナーなどに気をつけるようになりましたか。という問いに対して、「少し気をつけるようになった。」71%、「すごく気をつけるようになった。」14%の回答であった。
- (7) 実習に参加したことにより、職業人(監督・職人)の生き方に対する見方が変わりましたか。という問いに対して、「これまで以上に強いあこがれと尊敬の念を持つようになった。」57%、「これまでより少しあこがれを持つようになった。」29%であった。
- (8) 職業人(監督・職人)の仕事に対する考え方が分かりましたか。という問いに対して、「何となく分かった気がする。」57%、「知ることができた。」36%であった。
- (9) 安全に気をつけて実習を行えましたか。という問いに対して、「十分、安全に気をつけて実習できた。」86%、「気をつけたが、徹底することが難しかった。」7%であった。
- (10) 守秘義務があることを自覚し、実習が行えましたか。という問いに対して、参加者全員から「十分に気をつけて実習を行った。」と回答が得られた。

---

#### 【まとめ】

企業内実習を通して、業界内での学生自身が進むべき進路を考えるきっかけの場となる部分や学ぶ事に対して意欲が高まったという結果が得られた。また、礼儀・挨拶・マナーや守秘義務といった大切さを学ぶきっかけとなっている。

このように、実体験の中で多くを学ぶきっかけを得られる企業内実習は、学生にとって有意義なものと考えられる。

---

#### <受入企業アンケート回答者実習概要>

実習形式:短期集中型

期間:平成29年8月7日～9月25日 10～23日間 実習時間80～184時間

参加人数:1事務所あたり、1～5人

<h4>アンケート結果(企業:設計)</h4>
-------------------------

- (1) 学校が事前の準備・打ち合わせ等の学校が事前に準備しておく必要があるものについての問いに対して、「学生の自宅住所や連絡先を書いた名簿」・「学生の仕事や将来に関する考え方を書いた作文」がともに、71%であった。
- (2) 学校が事前に指導する必要があることについての問いに対して、「守秘義務に関する知識と注意事項」100%、「安全に関する知識と注意事項」71%であった。
- (3) 学校と事前に打ち合わせておく必要があるものについての問いに対して、「学生が怪我、病気になったときの対応方法」82%、「学生の学校での様子、個性など」29%であった。
- (4) 建設の知識の必要性についての問いに対して、「実習で行うことと、学校で学ぶことは、直接、結びつかなくて

も、将来の全般的な資質・能力の向上につながればよい。」47%、「基本的なことが理解できていれば、実習で行う内容を学校で学んでいなくてもよい。」29%であった。

(5) 企業内実習の障害についての問いに対して、「実習への活動意欲の低さ」65%、「礼儀や挨拶等の基本的な社会生活上のマナーの欠如」53%、「積極的に学ぼうとする能動性の低さ」47%、「コミュニケーション能力の低さ」41%であった。

(6) 学生に習得してほしいものについての問いに対して、「働く人たちの仕事に対する考え方・姿勢」47%、「設計や職種に関する知識・技能」・「座学(授業)と社会(現場)の違い」がともに35%であった。

(7) 受入企業にとっての意義の問いに対して、「若い学生が実習に来たことにより、職場の雰囲気は賑やかになった。」41%、「少しは仕事の役に立った。」・「若い職員に学生を指導させたため、その職員の勉強になった。」がともに29%であった。

(8) 大変なことについての問いに対して、「特に、大変なことはなかった。」35%、「学生に行わせるプログラム作りが大変だった。」・「仕事が忙しくて、学生を指導する職員がいなくて困った。」がともに24%であった。

(9) 配慮したことについての問いに対して、「設計事務所の仕事に興味を持たせるため、実習プログラムを工夫した。」59%、「現場の実際の様子を体験させるため、職員の一員として仕事に取り組みさせた。」47%であった。

(10) 企業内実習を受け入れたことの問いに対して、「社会が求めている即戦力の育成に貢献するため、実習を受け入れた。」・「学生に現場の実際を体験させ、早期退職等のミスマッチを防ぐことに尽力するため、実習を受け入れた。」がともに、41%であった。

---

## 【まとめ】

企業内実習を実施するには、事前の準備・指導が重要であることがこのアンケート結果から分かる。また、学生に求めることについては、知識よりも学ぶ意欲や姿勢、コミュニケーションといった向上心を持って企業内実習に取り組んでほしいとの考えをもっていることが見えた。

企業内実習を受け入れる企業は、職場が賑やかになったことや職員の勉強になったという企業単体としての意義はあるものの、根本的には社会貢献として業界全体のことを考えて企業内実習を受け入れていることが分かる結果となった。

---

## 【マイスター(大工・左官)】

### <学生アンケート回答者実習概要>

実習形式: 短期集中型

期間: 平成29年9月4日～9月9日 6日間(実習時間48時間)

参加人数: 3人

<h3>アンケート結果(学生:左官)</h3>
-------------------------

(1) 実習に参加して、自分の進路への考え方はどう変わりましたか。という問いに対して、「目指していた進路への意欲がすごく高まった。」67%であった。

- (2)実際の現場で実習したことにより、これまでに学校で学んだことが、より理解できるようになりましたか。という問いに対して、「少し理解が深まった。」67%、「すごく理解できるようになった。」33%であった。
- (3)実際の現場での実習は、これからの学習に役立ちそうですか。という問いに対して、参加者全員から「すごく役立つと感じた。」との回答が得られた。
- (4)実習に参加したことにより、もっといろんなことを広く・深く学びたいという、意欲が高まりましたか。という問いに対して、「学ぶ意欲が少し高まった。」67%、「学ぶ意欲がすごく高まった。」33%であった。
- (5)実習に参加したことにより、礼儀や挨拶・マナーなどの大切さを感じましたか。という問いに対して、「すごく実感した。」67%、「大切さを感じた。」33%であった。
- (6)実習に参加をしたことにより、日常生活においても礼儀や挨拶・マナーなどに気をつけるようになりましたか。という問いに対して、「すごく気をつけるようになった。」・「少し気をつけるようになった。」・「これまでとあまり変わらない」がそれぞれ33%であった。
- (7)実習に参加したことにより、職業人(監督・職人)の生き方に対する見方が変わりましたか。という問いに対して、「これまで以上に強いあこがれと尊敬の念を持つようになった。」・「これまでより少しあこがれを持つようになった。」・「これまでの見方とあまり変わらなかった」がそれぞれ33%であった。
- (8)安全に気をつけて実習を行えましたか。という問いに対して、参加者全員から「十分、安全に気をつけて実習できた。」と回答が得られた。
- (9)守秘義務があることを自覚し、実習が行えましたか。という問いに対して、参加者全員から「十分に気をつけて実習を行った。」と回答が得られた。

---

#### 【まとめ】

企業内実習を通して、学生自身が進むべき進路を考えるきっかけの場となる部分や学ぶ事に対して意欲が高まったという結果が得られた。また、礼儀・挨拶・マナーや守秘義務といった大切さを学ぶきっかけとなっている。

このように、実体験の中で多くを学ぶ姿勢を見直すきっかけとなる企業内実習は、学生にとって有意義なものと考えられる。

---

#### <受入企業アンケート回答者実習概要>

実習形式:短期集中型

期間:【左官】平成29年9月4日～9月9日 6日間(実習時間48時間)

【大工】平成29年10月5日～平成30年2月1日 15日間(実習時間60時間)

参加人数:2人(左官)、4人(大工)

## アンケート結果(企業:大工・左官)

- (1) 学校が事前の準備・打ち合わせ等の学校が事前に準備しておく必要があるものについての問いに対して、「学生の自宅住所や連絡先を書いた名簿」100%、「学生の仕事や将来に関する考え方を書いた作文」50%であった。
- (2) 学校が事前に指導する必要があることについての問いに対して、「安全に関する知識と注意事項」・「守秘義務に関する知識と注意事項」がともに、100%であった。
- (3) 学校と事前に打ち合わせしておく必要があるものについての問いに対して、「学生が怪我、病気になったときの対応方法」100%、「その他:交通手段」50%であった。
- (4) 建設の知識の必要性についての問いに対して、「学校で学んでおく必要がある。」・「実習で行うことと、学校で学ぶことは、直接、結びつかなくても、将来の全般的な資質・能力の向上につながればよい。」がともに、50%であった。
- (5) 企業内実習の障害についての問いに対して、「礼儀や挨拶等の基本的な社会生活上のマナーの欠如」・「実習への活動意欲の低さ」・「職場に馴染もうとする協調性の低さ」がそれぞれ100%、「安全に対する知識の不足」・「守秘義務に関する意識の希薄さ」がともに50%であった。
- (6) 学生が得た最も重要なものについての問いに対して、「自分の技術力のなさを実感したこと」・「社会生活上のマナーや規範意識」・「働く人たちの仕事に対する考え方・姿勢」・「座学(授業)と社会(現場)の違い」がそれぞれ50%であった。
- (7) 受入企業にとっての意義の問いに対して、「職場の雰囲気は賑やかになった。」100%、「少しは仕事の役に立った。」・「若い職員に学生を指導させたため、その職員の勉強になった。」がともに50%であった。
- (8) 大変なことについての問いに対して、「特に、大変なことはなかった。」・「学生に行わせるプログラム作りが大変だった。」がともに50%であった。
- (9) 配慮したことについての問いに対して、「建設業に興味を持たせるため、実習プログラムを工夫した。」・「職場に馴染ませるため、若い職員を指導係にした。」がともに50%であった。
- (10) 企業内実習を受け入れたことについての問いに対して、「地元の建設業で働く人材を確保するため、実習を受け入れた。」・「その他:学業とプロとの違いを体験し、将来に活かしてもらいたい。自社の若い職員にとっても、勉強になるから。」がともに50%であった。

---

### 【まとめ】

企業内実習を実施するには、事前の準備・指導が重要であり、特に、病気や怪我の対応や現場への交通手段など安全面について求められていることがこのアンケート結果から分かる。

また、学生には、企業内実習を通して、現在の実力のなさを感じ取り、学校の授業と現場とは異なることをはじめ、挨拶・礼儀・マナーといった働くことにおいて必要であることを認識してもらうことを求めていることが分かる結果となっている。

企業内実習を受け入れる企業は、職場が賑やかになったと企業単体としての意義はあるものの、学生に将来に向けた一助となる部分を補いながら地元地域の社会貢献としてのことを考えて企業内実習を受け入れていることが分かる結果となった。

---



## アンケート結果(学生:神河)

- (1) 実習に参加して、自分の進路への考え方はどう変わりましたか。という問いに対して、「目指していた進路への意欲がすごく高まった。」50%、「目指していた進路への意欲がやや高まった。」33%であった。
- (2) 実際の現場で実習したことにより、これまでに学校で学んだことが、より理解できるようになりましたか。という問いに対して、「すごく理解できるようになった。」67%、「少し理解が深まった。」33%であった。
- (3) 実際の現場での実習は、これからの学習に役立ちそうですか。という問いに対して、「すごく役立つと感じた。」92%であった。
- (4) 実習に参加したことにより、もっといろんなことを広く・深く学びたいという、意欲が高まりましたか。という問いに対して、「学ぶ意欲がすごく高まった。」92%であった。
- (5) 実習に参加したことにより、礼儀や挨拶・マナーなどの大切さを感じましたか。という問いに対して、「すごく実感した。」92%であった。
- (6) 実習に参加をしたことにより、日常生活においても礼儀や挨拶・マナーなどに気をつけるようになりましたか。という問いに対して、「少し気をつけるようになった。」75%、「すごく気をつけるようになった。」25%であった。
- (7) 実習に参加したことにより、職業人(監督・職人)の生き方に対する見方が変わりましたか。という問いに対して、「これまで以上に強いあこがれと尊敬の念を持つようになった。」75%、「これまでより少しあこがれを持つようになった。」25%であった。
- (8) 安全に気をつけて実習を行えましたか。という問いに対して、「十分、安全に気をつけて実習できた。」92%であった。
- (9) 守秘義務があることを自覚し、実習が行えましたか。という問いに対して、「十分に気をつけて実習を行った。」75%であった。

---

### 【まとめ】

企業内実習を通して、学校で学んだことの再認識や学ぶ事に対して意欲が高まったという結果が得られた。また、礼儀・挨拶・マナーや守秘義務といった大切さを学ぶきっかけとなっている。

このように、実体験の中で学生自身の進むべき方向性や学んだことに対する再認識するきっかけの場となる企業内実習は、学生にとって有意義なものと考えられる。

---

## アンケート結果(企業:神河)

- (1) 学校が事前の準備・打ち合わせ等の学校が事前に準備しておく必要があるものについての問いに対して、「学生の仕事や将来に関する考え方を書いた作文」78%、「学生の自宅住所や連絡先を書いた名簿」11%であった。
- (2) 学校が事前に指導する必要があることについての問いに対して、「安全に関する知識と注意事項」100%であった。
- (3) 学校と事前に打ち合わせておく必要があるものについての問いに対して、「学生が怪我、病気になったときの対応方法」67%、「学生の学校での様子、個性など」44%であった。
- (4) 建設の知識の必要性についての問いに対して、「実習で行うことと、学校で学ぶことは、直接、結びつかなくても、将来の全般的な資質・能力の向上につながればよい。」56%、「基本的なことが理解できていれば、実習で行う内容を学校で学んでいなくてもよい。」22%であった。
- (5) 企業内実習の障害についての問いに対して、「安全に対する知識の不足」67%、「礼儀や挨拶等の基本的な社会生活上のマナーの欠如」・「積極的に学ぼうとする能動性の低さ」56%であった。
- (6) 学生が得た最も重要なものについての問いに対して、「現場の雰囲気」56%、「協力することの大切さや他人とのネットワークの必要性」・「座学(授業)と社会(現場)の違い」がともに44%であった。
- (7) 受入企業にとっての意義の問いに対して、「若い学生が実習に来たことにより、職場の雰囲気が賑やかになった。」56%、「少しは仕事の役に立った。」33%であった。
- (8) 大変なことについての問いに対して、「特に、大変なことはなかった。」・「学生に行わせるプログラム作りが大変だった。」がともに50%であった。
- (9) 配慮したことについての問いに対して、「建設業に興味を持たせるため、実習プログラムを工夫した。」63%、「現場の実際の様子を体験させるため、職員の一員として仕事に取り組みさせた。」38%であった。
- (10) 企業内実習を受け入れたことの問いに対して、「社会が求めている即戦力の育成に貢献するため、実習を受け入れた。」63%、「地元の建設業で働く人材を確保するため、実習を受け入れた。」が38%であった。

### 【まとめ】

企業内実習を実施するには、事前の準備・指導が重要であり、特に、学生の仕事に関する将来的なことや安全面について求められていることがこのアンケート結果から分かる。

また、学生に求めることについては、安全に対する意識や知識よりも学ぶ意欲・姿勢といった向上心を持って企業内実習に取り組んでほしいとの考えをもっていることが見えた。

企業内実習を受け入れる企業は、職場が賑やかになったと企業単体としての意義はあるものの、地元地域の社会貢献としてのことを考えて企業内実習を受け入れていることが分かる結果となった。

---

## 第三者評価結果

---

### 評価結果からの考察

#### (1) 構成の工夫:17点/20点

全体的に高評価を得られていた。特に、「①冊子全体は、読みやすく、分かりやすい構成になっているか。」と「②必要な情報がバランスよく記載されているか。」が高講評を得られた。

読みやすさと必要な情報のバランスが取れていることが評価された結果である。

#### (2) 内容の工夫:37点/40点

全体的に高評価を得られていたが、特に、「①実証にもとづく、説得力のある内容になっているか。」と「③最低限、必要な情報は記載されているか。」、「④失敗事例を効果的に記載しているか。」、「⑤Q & Aは、冊子の概要版として、分かりやすく作成されているか。」が高評価を得られた。

失敗事例とQ&Aに対する評価が特によかった結果である。

#### (3) 表現の工夫:14.2点/15点

全体的に高評価を得られていたが、特に、「②本文中の図や表などの資料は、適切に配置されているか。」が高評価であった。

図と表との配置において、読み手が分かりやすくできている評価結果である。

#### (4) 汎用性の工夫:22.2点/25点

全体的に高評価を得られていたが、特に、「②初めて取り組む学校でも、参考となる内容となっているか。」が高評価であった。

参考資料としては十分な内容を盛り込んでいるガイドラインであるとの評価結果である。

全体的には、平均点:90.2点/100点という高評価であった。



---

## 次年度に向けて

---

本年度のガイドラインの内容については、評価委員からは高評価を得られることとなったが、全国の建設系専修学校での実証が、現時点では実施できていないことが課題である。

兵庫県以外の地域特性を踏まえた実態を反映したガイドラインを作成するには、各地域の建設系専門学校との協力が必要である。

しかしながら、各地域の専修学校と企業・団体との連携においては、必ずしも温情的な関係ではなくビジネス的な関係なものや、学校のカリキュラムにおいても地域毎に異なるため、以下のような課題があると考えられる。

- ①企業・団体とは学生就職における結びつきは強いが、企業内実習の協力関係の構築にまでは至っていない地域がある。
- ②企業内実習を行う前提となる単位認定について、教育課程を工夫取組がなされず、見学会的な活動に止まっている学校がある。

平成30年8月に「全国専門学校土木教育研究会(通称:専土研)」という全国の主な建設系専修学校の総会を本校で開催する。その場において、本事業の取組みの理解と普及を各専修学校へ促し、全国へ展開することを目指す。